

ここが聞きたい!!

一般質問

7議員が村政を問いました

・高齢者福祉施設建設
・道の駅の整備

木村一俊議員

1 高齢者施設の建設

問 8月末現在、占冠村において673世帯の総世帯数のうち、65歳以上のお年寄りで構成されている高齢者世帯の数は148世帯です。このうち夫婦だけの世帯は69世帯、女性だけの世帯は52世帯、男性だけの世帯は25世帯という状況です。平成26年度までに高齢者施設整備をしていくとのことでしたが、遅れている理由をお聞きます。

中村村長

小規模多機能型居

宅介護施設については、現在事務を進めているところで、平成26年度に完成を目指す行程は変わっていません。

問 第4次占冠村総合計画の見直しが諮問され、委員各位の議論のもとで答申が出されました。その中で高齢者福祉施設については在宅介護の充実を前提にして議会・住民議論により選択していくとありますが、今回の施設建設には住民との議論が余りにもなされていなかったと思われませんか。

中村村長

アンケートを実施して結果を配付しましたが、理解は十分でないが得られていると考えています。10月に住民説明会を予定し理解を深めていく

よう進めていきたいと思っています。

2 商工観光対策

問 高速道開通後の国道・『道の駅』の混雑ぶりは著しいものがあります。駐車場出入口や信号付近の出入口は手狭で、年間5千台以上の利用がある大型観光バスのすれ違いにも大変危険な状況です。更に女子トイレでは館内に長蛇の列ができ、来客者に満足な対応がなされていないなか、立ち寄らず通過するだけの客を増やすのではと危惧しています。対策は考えていますか。

中村村長

確かに夏のピーク時には観光客が一気に増えており、駐車場警備員の配置やコミュニティプラザのトイレ開放でその対策を講じています。7・8月を除いた10カ月間は現在の規模で対応が可能と考えていることから、増設整備する考えは持っていません。

街道型商業圏ともいうべき産業を築くような街づくりを村・商工会・観光協会とともに考えてはと思っています。

中村村長

交流人口を大きくするのが即効的なものと思っています。駐車場等を整備したから寄る車が増えるというのは、大きな要素ではないと思っています。村の魅力や道の駅の魅力、そういったものが寄ってくれる方を増やすので、関係する商工会・観光協会とも十分に連携を取って進めて行こうと思っています。

3 地域企業の振興

問 地域企業振興条例の延長についてはどういう方針でしょうか。

中村村長

村内企業の手助けとなつていと思っていますので、条例を継続する作業を進めています。

中村村長

村の基幹産業である農業においても新規就農者を受け入れ、農業を守ろうとしています。地元企業についても企業の維持・伝承・継承という後継者問題にも配慮し、村の雇用を守るためにも対応していったら

いと思っています。

中村村長

商業の振興については、窓口が商工会ということもあり、村としても検証しながら商工会とも協議して進めていきたいと思っています。

4 学校給食

問 今年6月に札幌の小学校で誤飲による痛ましい事故が発生しましたが、各学校での給食事故発生時の校内体制は万全ですか。また、事故防止のための対策はどのように行われていますか。

教育長

学校保健活動研修会において専門員による講義等を行ってきています。日本学校保健会のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン等を参考に校内研修資料を作成し対応しています。また、北海道で学校における危機管理手引き改正第2版が示され、研修等が実施されているところです。

《その他の質問》

○トマム地区のガソリンスタンドについて

・アライグマへの対応 ・福祉灯油の支給



佐野一紀議員

1 アライグマの捕獲と対応策

問 特定外来生物であるアライグマによる農作物への被害が出たと聞いていますが、村内の生息状況の情報提供の呼び掛けはどのように行い、提供は何件か伺います。

中村村長 アライグマ情報については村広報9月号で提供しています。

広報掲載以降3件の情報があり、2件についてアライグマと確認されています。箇所は宮下地区1件、美園地区1件です。

問 生態系に影響を及ぼすアライグマの習性は一對（つがい）で行動するとされており、複数の個体がいる可能性がります。繁殖率が高く夜行性ということで、捕獲は難しい面もあり

ます。他地域への生息域の拡大を防ぎ、農作物・畜産飼料等の被害防止のため、村・農業者が連携した地域全体での防除対策を講じるべきと考えますが、対応策を伺います。

中村村長 発生状況を広報等で知らせて、家庭菜園や農業者から生息の情報があれば、罠や、農家については監視カメラを設置する等出来る限りのことは現在行っています。捕獲は有害鳥獣捕獲許可に基づいて行っており、現在は箱罠5台を設置しています。

罠の所有台数は箱罠11台、エッグトラップ（※）5台を所有しており、農家の被害防止対策のモデルケースとして侵入防止を図るため、各圃場に防除ネットを試験的に設置しています。

生息実態を把握したいのですが、なかなか実態がつかめない状況です。

問 農作物ばかりでなく、ネズミ、モグラ等も食する雑食性で



アライグマ用の罠「エッグトラップ」

あり、アライグマを介して他の生物を媒体とした人畜共通感染症を発症すると言われています。

住民の感染への不安を払拭し住民に正しく理解してもらうことも必要と考えます。また、他町村で事例はあるのか伺います。

中村村長 アライグマの人畜共通感染症として、アライグマ回虫、レプトスピラ症等が報告されています。

国内においては過去に1件、飼うウサギへの感染が報告されていますが、近隣ではそのような事例は聞いていませんが、感染経路の詳細など今後防護策と

※エッグトラップとは？
半球体のカバーの中にばね式の仕掛けがある罠。餌を仕掛け前足で取ろうと手を入れると罠にかかる。

2 斎藤の沢水路の改修

ともに広く住民に周知したいと考えています。

問 斎藤の沢の延長線に水路があり山菜加工場と森林管理事務所の間を流れています。その水路のU字溝が倒壊寸前の状況にあり、山菜加工場が隣接しているため、環境・食品衛生上からも早期に改修が必要と考えますが、伺います。

中村村長 この水路はすでに30年以上経過しており、老朽化して破損状態が目立つ状況です。環境・食品衛生上を考慮し補修したいと考えますが、事業

費がかさむことが予想され年次計画で随時整備していきます。

3 福祉灯油の支給総額

問 例年福祉灯油が低所得世帯を対象に支給されているが、近年小売価格の高止まり状態が続いています。冬に向けて更なる高騰が懸念されるので、一定の線引きは当然必要ですが、支給額の上積みを考えてはどうか伺います。

中村村長 灯油価格の上昇率と村の支給額に乖離があることから、福祉灯油の支給単価の見直しをしていきたいと思っています。

高齢者、障がい者、ひとり親世帯に対し、生活条件の緩和、意欲の助長を図るため暖房費の一部を助成して行きます。対象者は村民税非課税世帯で、70歳以上の高齢者がいる世帯、障がい者のいる世帯、18歳未満の子を扶養しているひとり親世帯です。支給額はこれまでの1万5千円から1万8千円に変えて支給します。

・消防団員の確保 ・新規就農者への取り組み



小峰義雄議員

1 財政推計

問 財政について執行方針でも表明していますが、平成26年度からの財政推計はいつまでに作成し、今までの財政運営を総括的にどう分析していますか。また、今後どのようなことを重点に考え推計しますか。

中村村長 本年11月を目途として平成26年から3力年の推計を考えています。

合併協議会を解散して自立の道を選択し、歳入に見合った歳出を基本に、様々な歳出削減を実行してきました。政権交代等もあり、地方分権の流れの中で、想定していた地方交付税の減少はなく、景気浮揚や一定の行政課題の整理と住民サービスの確保、財政調整基金の積み立てや特定目的基金創設など、持

続的な財政運営が可能となる土台作りは出来たと思っています。

しかし、まだまだ問題も多く、住民サービスに答えられていない面もありますので、限られた財源の中で、より効果的な財政運営に努めます。今後の重点ですが、基本は歳入に見合った歳出を踏襲し、総合計画に沿った財政支出を基本に、多くの課題を打開していくことです。

2 消防団員確保対策

問 村は人口減少や少子高齢化の進行により団員の確保が難しくなっていますが、どのように認識していますか。また、団員の待遇改善を図ることも対策になると考えますが伺います。

中村村長 消防団員の担い手不足は認識しています。消防団員は地域の災害対応や防災活動に必要不可欠と考えています。団員確保にどのような施策が必要か消防団とも協議して進めま

す。

問 広域連合議会の中で、村は消防団員の確保状況や、団員の福利厚生費が著しく低いことが指摘されています。考え方を伺います。

中村村長 消防団員は自分の仕事を持ちながらの活動であり、待遇改善は必要であると考えます。広域連合消防とも協議し改善に向けて進めます。

3 防災対策

問 ゲリラ豪雨が今年は全国的に多発しています。道内でも全国最多の10回で、昨年の2倍です。幸い村では近年発生していませんが、防災対策は重要ですが、河川敷地の立木処理について伺います。

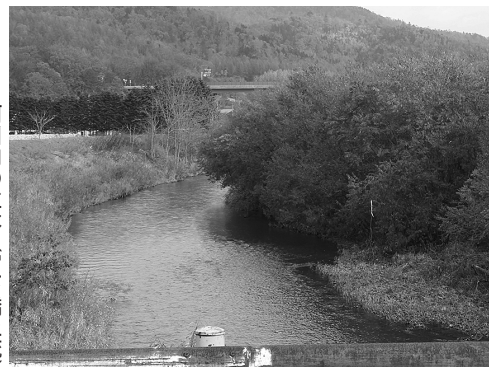
中村村長 河川内立木処理は毎年北海道に要望し、本年は宮下橋から合流地点までの予定と聞いています。

問 村の状況からすると千歳橋の下流や宮下橋の上流も危険です。

中村村長 そのことも含め要請します。

4 新規就農等 支援対策事業

河川内の立木（宮下橋上流）



問 村の農業の現状は農地面積567.8ヘクタール、農家戸数18戸、平均年齢約58.6歳、後継者確保数2戸。この現状を考えてみると、昨年度より実施している対策事業は今後の農業振興を考えると有効な施策であると評価しています。

中村村長 本年4月に名古屋より就農を目指して農家で研修を続けていて3力月で中止し、受け入れ農家に迷惑をおかけしたと聞いています。認定の段階で問題はなかったのか伺います。

中村村長 現在の要項により関係機関に相談して認定しておりますが、より適正と判断していますが、よ

り充実したものとなるよう進めています。

問 十勝管内で酪農ヘルパーをしていたご夫婦が酪農を目指して実習をしているとのことですが、就農場やコンサルティングを行っているか伺います。

中村村長 放牧酪農を目指しています。就農場は関係機関に相談して判断します。サポートについては本年6月に設置した占冠村新規就農支援協議会で行います。今後、放牧の専門家より経営を学ぶ機会も作る予定です。

問 対策要項は万全ですか。農業経営等に精通したスタッフの配置が必要と思いますが伺います。

中村村長 要項は現時点では万全と認識しています。スタッフの配置の必要性は十分感じています。各関係者の理解が必要で、農協・村・農業委員会等で配置先をどこにするか整理して進めます。

□その他の質問

- ・中央小学校横の土砂対策
- ・防災計画の見直し
- ・給付型奨学金制度の創設